

もとぐされびょう

サツマイモ **基腐病** 防除について

西日本を中心に感染が拡大している「サツマイモ基腐病」対策の基本は、圃場に病原菌を**持ち込まない**ことが最も重要になります。

当産地でも定植へ向けて本格的な植え付け準備に入っています。圃場に病原菌を侵入させないため、**苗消毒と土壌消毒等の徹底**をお願いします。

対策をきちんと実施していても土壌伝染等による発病の可能性があります。圃場定植後に下記のような疑わしき株を発見した場合は、すぐに最寄りのJAかとり各経済センターまで報告をお願いします。

本圃での発生の様子



葉が変色した生育不良の株（定植後40日頃）



株元は黒～褐色

※「**基腐病**」の地上部に現れる症状は「**つる割病**」と似ているため判別が難しい。

＜薬剤防除の流れ＞

生育ステージ	 定植2週目～	 定植5週目頃	 定植6週～（茎葉が畝間を覆う） 梅雨時期の豪雨等	 台風
発病状況	発病株散見 苗消毒で取りこぼした株の発病	発病株の増加 前作の土壌残渣由来の発病も始まる	二次伝染による病気の拡大 病原菌の拡散	病勢進展 地上部の一部が枯死
防除方法・薬剤	① Zボルドー水和剤 ② ジーファイン水和剤 アミスター20フロアブル	苗消毒効果 (定植5～6週目まで)	異常株の除去とその周辺株への銅剤散布	銅剤散布 <small>アミスターの運用をさけるため交互に散布</small> 畝間に水が溜まるような降雨後や風雨を伴う台風通過直後に散布

※サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策（令和2年度版）より引用・編集。

裏面の登録農薬一覧と併せて、防除の流れを確認してください。

発病後の防除の流れ

苗消毒の効果は、定植後 5～6 週間は持続しますが、それ以降は消毒効果が下がっていきます。そのため、圃場に病原菌が残っている場合は、基腐病が発生する可能性が高くなります。

発生が確認された場合は、周辺株への伝染防止のために異常株の除去後に①銅剤（予防剤）散布→②治療剤散布→③銅剤散布の交互での散布による防除体系が重要になります。

< 基腐病登録農薬一覧 >

令和 3 年 4 月現在

農薬名	登録病害名	希釈倍数	10a 当り 散布液量	使用方法	使用時期
Z ボルドー 水和剤	斑点病 基腐病	500 倍	100～300ℓ	発病株抜き取り後 周辺株への予防散布 (圃場散布)	収穫前日 まで
ジーファイン 水和剤	基腐病	1000 倍	200～300ℓ		
アミスター20 フロアブル	基腐病	2000 倍	100～300ℓ	散布 (予防・治療)	収穫 14 日 前まで
		32 倍	1.6ℓ	無人航空機による散布 (予防・治療)	

※使用前に必ず農薬ラベルの確認を行ってください。

◆重要◆

令和 3 年 3 月 10 日、「アミスター20 フロアブル」がサツマイモ基腐病に対して登録が拡大されましたが耐性菌が付きやすい為、Z ボルドーやジーファイン水和剤等の銅剤予防散布を基本とした体系防除と異常株の早期発見・異常株の除去が重要になります。

※人参等で使用される「アミスターオプティフロアブル」はかんしょに登録がないため使用しないよう注意してください。

育苗床での発生の様子

サツマイモ基腐病は、株基部からの黒変が特徴の病害です。圃場への定植作業が始まる中で、育苗床で写真のような疑わしい症状が見られた場合、ハウス外への持ち出しを行ってください！



葉巻、しおれ症状



葉の変色



地際の黒褐変



発病した種イモと
苗基部の黒変

※本資料は、農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）令和 2 年度版「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」をもとに作成しています。